

## 2016年(平成28年)の貧酸素水塊(まとめ)

2016年の貧酸素水塊の分布及びその規模を図1～図3に示します。

貧酸素水塊の初確認は4月5日で、例年より早い発生でした。同月中旬の強い南風によって、出来始めていた貧酸素水塊は一時的に解消しましたが、5月中旬以降、内湾北部の千葉側で再発生し、その後は内湾北部の水深10m以深の海域に広がりました。6月に入ると、DOが1mL/Lを下回る強く貧酸素化した海域がみられるようになり、徐々にその分布域は拡大しました。

7月以降、貧酸素水塊は、時折吹く強い南西風の影響で南西方向へ移動するなどしながら次第に規模を拡大し、8月上旬に今年の最大規模(33%)となりました(図2)。しかし、2000年以降の年間最大規模と比較すると、今年はやや小さい規模となりました。その理由として、例年貧酸素水塊が発達する5月に一時的に貧酸素水塊が解消したことや、7月の気温が低く推移したことなどが考えられます。

8月17日に房総半島沿岸を通過した台風7号や、9月の雨が多く日照時間の短い天候などの影響で、9月下旬には貧酸素水塊の分布域と規模は縮小しました(図2)。その後貧酸素水塊は徐々に縮小し、例年よりやや早い11月14日に解消が確認されました。

千葉県水質保全課によると、青潮は2回発生しました(6月14～15日、8月29～31日)。

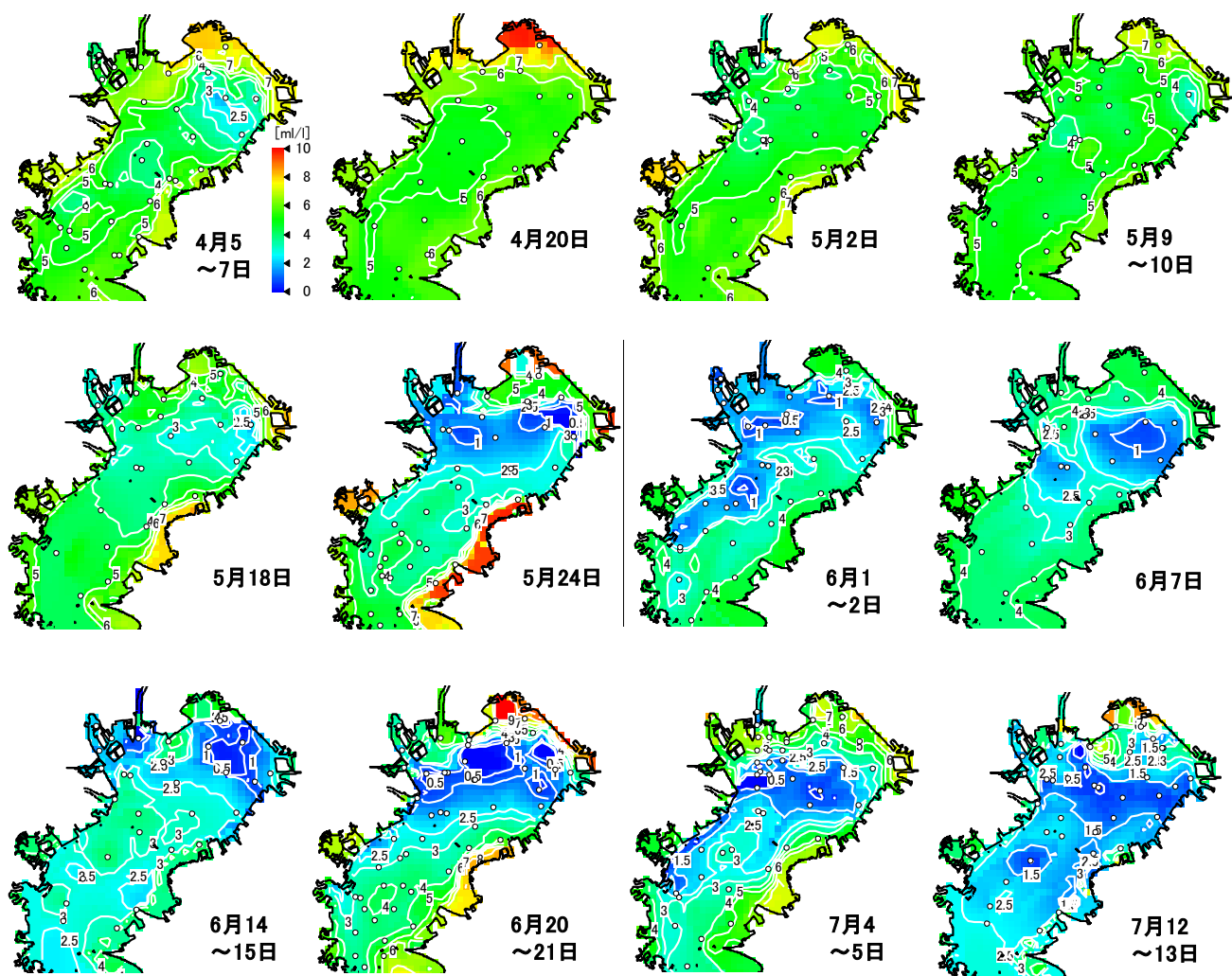


図1 底層の貧酸素水塊の分布

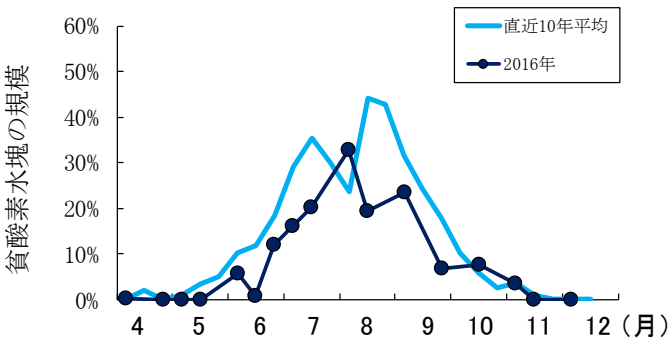
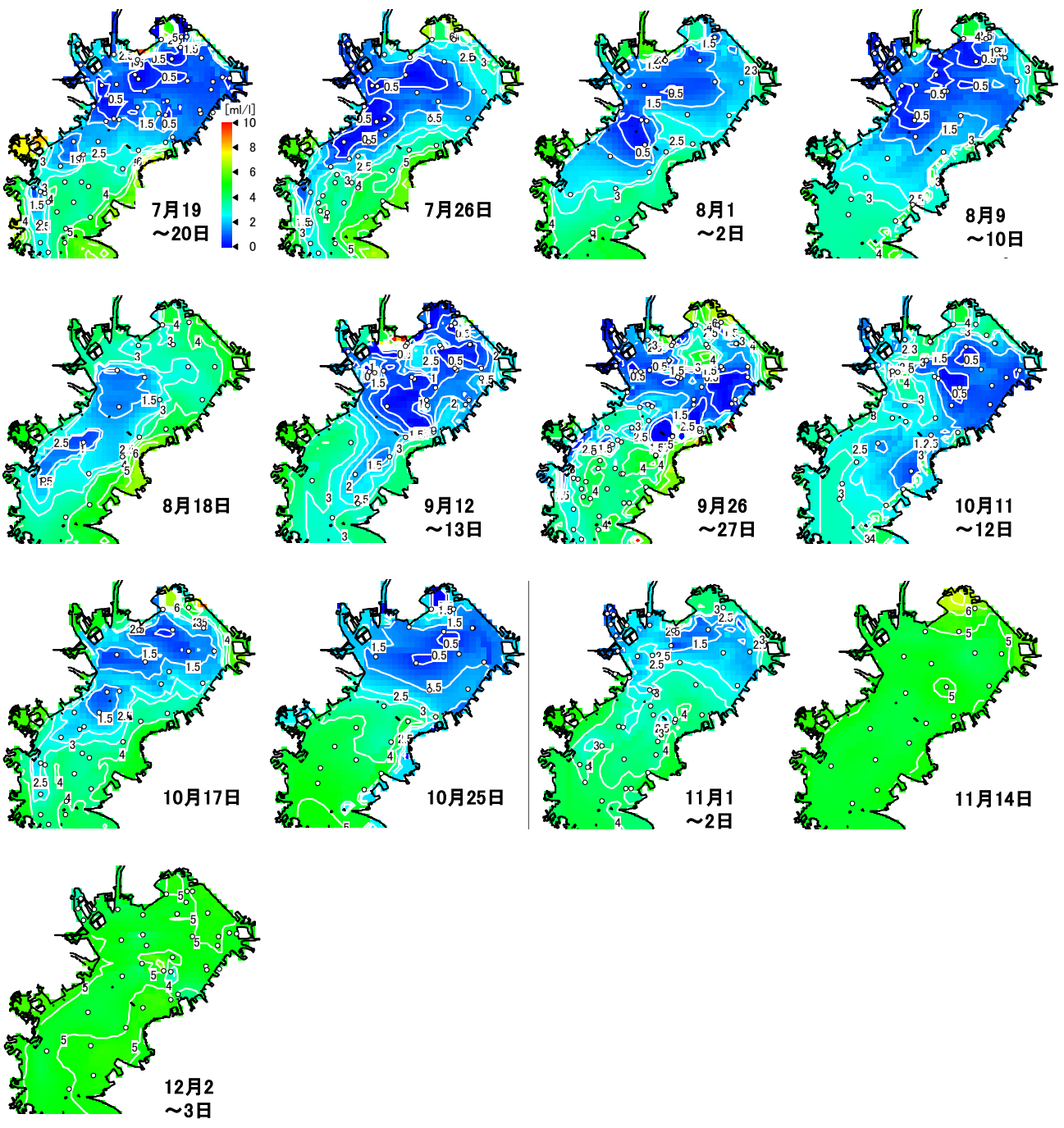


図2 貧酸素水塊の規模

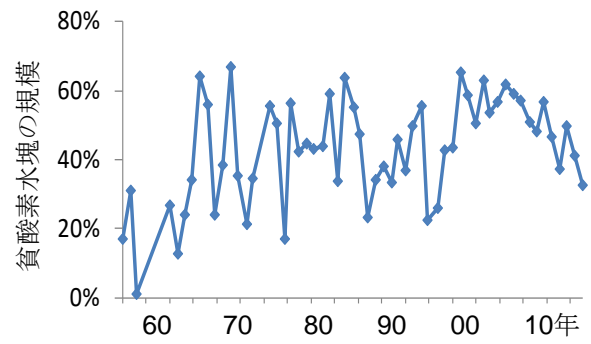


図3 年間最大規模の経年変化 (1955年~2016年)